

## 長岡大学

連携自治体：長岡市

### 事業名：長岡地域<創造人材>養成プログラム



#### 事業の概要・目的

##### (地域の課題)

連携自治体<長岡市>の課題(平成25年度申請時点)

##### 【第1】産業活性化

グローバル経済下の競争に勝つ(産業空洞化回避)ための企業競争力の強化と新産業創出の方策を考える。

##### 【第2】市民協働による社会課題解決

高齢化に伴う健康、医療、福祉、環境等多様な課題解決を市民協働でどう進めるかを考える。

##### 【第3】地域・コミュニティの活性化

少子高齢化に伴う人口減少下で、どう地域・コミュニティの活性化を行うか、を考える。

##### (課題解決のための大学の取組)

##### 【教育】

諸専門能力(上級情報・専門資格取得)、地域志向科目の拡大・進化による企業・社会課題解決能力(社会人基礎力、起業人材等)の養成。

##### 【研究】

産業競争力、創造人材、人口減少、ボランティアの4つの調査研究と課題解決に貢献。地域志向調査研究も推進。

##### 【社会貢献】

地域活性化の推進(中山間地等)、市民講座や企業人養成講座、起業人材の養成(女性等)による社会貢献。

#### 人材育成の取組

##### (人材育成像)

●専門資格と社会人基礎力を有する仕事積極推進人

＝地域企業活動等の若者担い手

●ボランティア・スキルを身につけたボランティア人

＝地域の市民協働の担い手

●起業ノウハウを身につけた学生起業人材

＝地域の新産業の担い手

●企業競争力を支えるイノベーション人材

＝専門ノウハウを有する企業人

●女性・シニア等起業家＝地域の新産業の担い手

##### (目指す人材育成のためのカリキュラム改革)

##### ■専門等資格取得の仕組み構築

資格取得支援センターによる、学生支援(演習-受験対策講座-相談・指導)の強化による資格取得者の大幅な増大。

##### ■地域志向科目の拡大と進化

地域志向科目の拡大、地域課題解決プログラムの充実。

課題に対する大学の取組	25年度	26年度(予定)	29年度(最終年度)(目標値)
地域志向科目の履修科目数(学生数)	19(680)	35(1,000)	35(1,000)
地域活性化プログラム(授業)参加学生割合	40%	50%	80%

##### ■起業家塾の充実

夏季集中の起業家塾授業を年間継続開催に拡大。

##### (これまでの成果)

##### ■資格取得相談者・取得者

平成26年度資格取得支援センターへの相談者数は延べ1,200人。取得者数延べ61人、合格率43.6%。

##### ■地域志向科目の拡大

16から35科目に拡大した(平成26年度)。

##### ■地域活性化プログラムの拡大・充実

地域の課題解決をテーマとする地域活性化プログラム(3・4年生必修ゼミ)は、10ゼミに拡大。

平成26年度  
地域活性化プログラム  
成果発表会



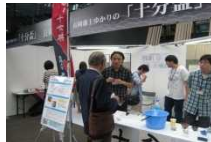
##### ■人材育成の取組事例

学生による地域活性化プログラムより事例紹介

##### ●事例1(3・4必修ゼミ/8単位)

##### 「十分杯で長岡を知らせよう」

江戸時代の長岡藩で倭約を奨励するものとして奨励された「十分杯」(サイフォンの原理応用の杯)の歴史、意義、現代での生かし方等を調査研究し、長岡市の文化財として位置づけ直し、観光文化資源としてアピールするべきとの提案を行った。長岡市・地域から関心をよび、高く評価された。学生の課題解決・社会人基礎力は大いに向上した。



##### ●事例2(3・4必修ゼミ/8単位)

##### 「企業の情報発信とホームページの役割」

長岡大学も参加する長岡地域産業活性化協会(NPO法人NAZE)の中小製造業企業のホームページをコンテンツとシステム両面から診断評価(評価シートによる)し、改善提案を行う。平成25年度2社、26年度3社行った。いずれも、NAZE総会で発表し、好評を得ている。学生の社会人基礎力も向上した。



##### (卒業後の学生のイメージ)

- ① 情報・専門的資格(能力)をもち、かつ事業を主体的・創造的に推進する意欲をもち、職場のリーダーとして活躍できる人材
- ② 地震等災害や地域活性化の諸活動に積極的に参加し、かつ、そうしたボランティア活動を中心になって担い、人口減少社会への貢献を行える人材

##### カリキュラムマップ

	1年	2年	3年	4年
地域志向科目				
社会人基礎力養成科目				
専門科目(資格取得)				

地域産業界・社会から求められている能力=専門性・社会人基礎力とボランティア・スキルを4年間で養成し、地域企業・社会のリーダーとして活躍できる能力を養成する授業を行う。

##### (地域志向カリキュラムの特徴)

##### ■地域志向科目35科目

平成26年度から地域志向科目を35科目に拡大し、地域を学び、地域課題解決に取り組む領域を大幅に拡大した。

##### ■社会人基礎力養成科目

##### 【ボランティア・スキルの養成】

1年生から、ボランティア論・体験授業(4単位)と地域の諸ボランティア活動を行う。

##### 【インターンシップ】

2年生から、インターンシップ(集中型、課題解決型)(2単位)を行い、地域企業での就業体験、課題解決活動を行う。

##### 【地域活性化プログラム】

主として3・4年ゼミ(必修)を対象にして、<学生による地域活性化プログラム>を実施。同プログラム推進協議会(連携自治体長岡市等)で地域の取組課題(産業、環境、福祉、コミュニティ、文化、国際等)を各ゼミごとに設定し、連携アドバイザーとゼミ担当教員の指導のもとに、文献調査・フィールドワーク等を行い、課題解決提案を行うPBL型プロジェクトである。平成26年度は10ゼミ、10プロジェクトが参加した。



#### 米百俵の精神を受け継ぐ人材の育成強化を

新潟県長岡市  
市長政策室政策企画課課長

中村 英樹

長岡大学と長岡市は、平成19年に包括連携協定を締結し、ものづくりの生産性向上や起業創業、地元産業界が求める人材育成など、より具体的に地域課題の解決に取り組んでいます。本プログラムを通じて、学生が地域の中に入り、祭りなどの伝統を支え、さらには地域住民と一緒に活性化策を考える場面を見ると、積極的かつ創造的な人材が育っていると感じています。これからも、長岡が誇る米百俵の精神を受け継ぐ人材の育成強化に取り組まれることを期待しております。



#### 「起業家塾」から県知事賞受賞

長岡大学  
経済経営学部環境経済学科 4年次

石井 恵夢



県知事賞を受賞しました。

「起業家塾」は夏季集中授業(2単位)です。8月の4日間、数名で仮会社を立ち上げ、ビジネスプランを競います。私もこの科目を履修し、5人のチームでマクロピオテックと米粉を融合したレストランを企画しました。このプランは、新潟県のキャンパスベンチャーコンテストで、見事、最優秀賞=知事賞を受賞しました(平成24年度)。COO事業でも継続しています。社会人基礎力が大いに向上し自信がつかうお奨め授業です。

## 富山県立大学

連携自治体：富山県、射水市、富山市、黒部市、南砺市、入善町



## 事業名：「工学心」で地域とつながる「地域協働型大学」の構築

### 事業の概要・目的

#### (地域の課題)

地域が抱える次の5つの課題を中心として、自治体関係者や企業・地域関係者との交流・対話・協働を通して、地域の声を事業に反映し、教育・研究・地域貢献に取り組む。

- (1) 地域産業の振興・地域の魅力向上 (H26: 34授業)
- (2) 持続可能な社会への対応 (10授業)
- (3) 超高齢化社会への対応 (2授業)
- (4) 地域の安全・安心 (9授業)
- (5) 子どもたちの「科学離れ」対策 (10授業)

#### (課題解決のための大学の取組)

- |      |  |
|------|--|
| 教育   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域との対話を重視した少人数ゼミ等の実施</li> <li>● アクティブラーニング協働スペースの整備</li> <li>● 学生によるCOCサポート組織の活動</li> </ul> |
| 研究   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域志向教育プログラム、地域志向研究の実施</li> <li>● 学生を地域課題を志向した研究に積極的に参加させ、卒業研究等に結び付ける。</li> </ul>            |
| 社会貢献 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 子供向け科学イベント「ダ・ヴィンチ祭」への学生の参画、出張講義による高校生向けの工学・教養セミナー「サテライトキャンパス」の充実</li> </ul>                 |

### 人材育成の取組

#### (人材育成像)

- 「工学心」を持ち、学生が積極的に地域と交流・対話・協働することにより、地域課題を肌で感じ、主体的に課題解決する能力を有する人材
- ※工学心：人々の暮らしに役立つ「工学」、新しい高度な技術への創造への熱意

#### (目指す人材育成のためのカリキュラム改革)

- 地域との対話を重視した少人数ゼミ等の実施
- ゼミ系科目、環境系科目、キャリア形成科目の必修科目を中心に、より地域を志向した授業内容となるように見直したうえで、「地域協働科目」として実施し、学生のコミュニケーション能力及び課題解決能力を育成

課題に対する大学の取組	25年度	26年度(予定)	29年度(目標値)
今後5年間で地域協働科目において地域に関する授業を行う教員数(累計)	12人 /108人	25人 /108人	90人 /108人
自治体と連携して教員が取り組む研究テーマ数	10件	14件	20件
シラバスにおいて地域に関する学修を行うことを明示している授業科目	3科目	8科目	9科目

### COC事業を通じた若者の県内定着への期待



富山県  
文書学術課長  
広沢 久也

本県では、県内企業の高い技術力や産学官連携により、ものづくり技術の高度化、産業の競争力強化を図っていますが、少子高齢化・人口減少社会の到来を迎え、地域の活性化や人口減少対策に積極的に取り組んでいく必要があります。学生の地域課題への主体的な活動を通じて、本県の魅力を再発見し、地域への愛着や誇りを育むとともに学生が地元で定着するきっかけとなることを期待します。

### 地域とのつながり



富山県立大学  
情報システム工学科 3年次  
高松将也

COC活動を通して、私の学生生活は大きく変化しました。今まで地域の方々と関わる機会というのはありませんでした。COC活動を基盤とした学生団体に入ったことをきっかけに、自治体、NPO団体、青年会議所などの方々と一緒に、一つの地域課題解決に取り組み、今までの大学生活では得られなかった「刺激」と、多くの方々と「つながり」を持つことが出来ました。地域とのつながりの中でより一層成長していきたいです。

#### (人材育成に地域の声を反映)

- 連携自治体との連携推進会議を開催
- 地域関係者を招いての成果発表会を計4回実施

#### (これまでの成果)(H26年度の実績)

- 地域に関する授業科目の充実(65授業)
- 地域志向教育プログラム(11件)、地域志向研究(16件)の実施
- 学生によるCOCサポート組織の活動
- 学生の成長度評価の実施(H26後期授業～)

#### ●事例1(専門科目/必修1単位)

#### 「黒部川扇状地を利用した観光開発の可能性」(黒部市、入善町)

北陸新幹線の開業を前に、学生が黒部川扇状地の豊富な水資源を活かした観光開発の可能性について調査し、提言を行った。

#### ●事例2(専門科目/必修1単位)

#### 「中学生を対象とした熱気球工作教室」(射水市)

中学生の科学離れ解消を目的として、ゼミ学生がサポートしてのごみ袋を使った熱気球工作教室を企画・実施した。学生は、人に教える難しさ、失敗から成功に導くプロセスを体験した。



#### ●事例3

#### 「学生グループCOCOSの活動」(射水市、南砺市)

工学を学ぶ学生の自由な視点から地域と共に考え活動することで地域へ働きかけることを目的に活動している。射水市青年会議所と協働でブランドメニューの企画を通じた地域の一体感の創出や、南砺市の民間団体と協働し公共交通の課題解決に向けたイベントを開催した。

#### (卒業後の学生のイメージ)

- ① 企業や自治体等において、地域社会や、社会全体を視野に入れ、主体的に課題を考え、チームワークを重視し、技術革新や、新事業創出に積極的に貢献できる人材
- ② 社会人として、仕事のみならず、自治会活動、ボランティア等に参加し、積極的に社会貢献できる人材。

学年	1年	2年	3年	4年
環境系科目	地域社会の環境問題を考察			
ゼミ系科目	地域課題を対話・交流を通して考察			
キャリア形成科目	地域貢献を意識したライフキャリア形成			
卒業研究	地域志向教育プログラム 地域志向研究		地域志向卒研	COCOSやサークル活動による地域貢献 ダ・ヴィンチ祭などの地域貢献活動への参画

#### (地域志向カリキュラムの特徴)

- 対話を重視した少人数ゼミの充実  
「地域協働科目」：1年次から3年次までの、必修科目の少人数ゼミで、対話・交流を重視し、グループワーク・アクティブラーニングを取り入れた地域協働授業の実施。
- 学生の主体的な取組の支援  
「COCOS、COCTA」：学生の独自の発想で自発的に地域課題に取り組む学生グループCOCOS(愛称: ココス)が活動地域協働科目をサポートするティーチングアシスタントCOCTA(愛称: コクーター)を採用
- 社会貢献活動への学生の参画  
子供向け科学イベント「ダ・ヴィンチ祭」への学生の参画  
サークルによる環境保全活動や小中学生向けイベントへの参画



## 金沢大学

連携自治体：石川県、金沢市、輪島市、珠洲市、能登町、穴水町、七尾市、能美市、小松市

### 事業名：地域の感性を備えた人材を育て社会を繋ぐ「地（知）」の拠点



#### 事業の概要・目的

##### （地域の課題）

連携自治体の課題(平成25年度申請時点)

##### 【能登】

少子高齢化・過疎化が全国より早いペースで進行

##### 【金沢】

歴史都市と創造都市の二つの側面からのジレンマ

##### 【加賀】

中心市街地の空洞化や農林水産業の後継者不足

##### （課題解決のための大学の取組）

教育	全新入生を対象とした地域志向の必修科目を新設する。
研究	複合的課題に対して異分野の研究者が学際的チームを編成し総合的に取り組む。
社会貢献	地域・世代のニーズに合わせた「学びの機会」を提供する。

#### 人材育成の取組

##### （人材育成像）

- 自らの価値観を相対化し、大学で学んだ知識を主体的行動に結びつけられる感性(能力)、すなわち「地域の感性」を備えた人材
- 「知識と社会」を結びつけ、自らの力で地域の課題を見出し、地域の未来を切り拓くことができる行動力ある人材

##### （目指す人材育成のためのカリキュラム改革）

###### ■「地域概論」の導入

共通教育における全新入生を対象とした地域志向の必修科目「地域概論」を導入することで、これから自分が学ぶ専門領域と「地域」との関わりについて、意識の涵養を促す。

###### ■ 共通教育特設プログラム「総合地域論」の導入

毎年1,000以上開講される共通教育科目を、目的意識を持って履修できるよう、平成23年度に開設された共通教育特設プログラムに、地域を志向した科目群で構成された「総合地域論」を新設・導入することで、学士専門教育に対する動機と地域社会の構成員としての意識の向上を図る。

###### ■ 学士課程専門教育における地域志向科目及び臨地教育科目の充実

専門教育における臨地教育により、自己の知識を「生きた知識」へと昇華させると同時に、答えのない問題に直面することにより、俯瞰力の重要性と自らの力で未来を切り拓くための行動力の重要性を認識させる。

##### （これまでの成果）

- 「地域概論」(1単位)のカリキュラム設計
- 地域志向教育プロジェクトの実施
- 学生による地域志向プロジェクトの実施

###### ●事例1(地域志向教育プロジェクト)

###### 「人間力強化プロジェクト」

学生が地域社会の中に入り、地域住民とともに生活を体験し地域の中で汗をかくことで、地域社会を理解するとともに、学生自身の意志力、忍耐力、コミュニケーション能力を鍛える地域志向の教育プロジェクト。

初回は、8月10日から12日の3日間、輪島市と珠洲市で実施し、43名の学生が参加した。

###### ●事例2(学生による地域志向プロジェクト)

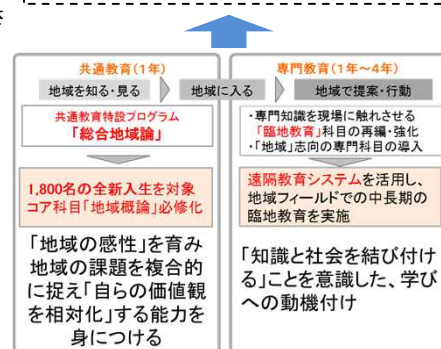
###### 「地域資源の理解促進 石川トランプ」

学生プロジェクト(団体名「飛脚」)が石川県内の名所や特産品を題材にしたトランプを製作した。記載する名産品等は、地域住民にアンケートを元に自治体に相談し決定。

さらに、遊び方についても、県内市町の人口や面積、道路舗装率などのランキングを使用したオリジナルのルールを考案し、県内各地でトランプ体験会を実施するなど、地域に入って行動する感性(能力)が向上した。

##### （卒業後の学生のイメージ）

- ① 人間社会系学生・・・地域の活性化(地域経済、観光、教育、国際化等への対応)に対応できる感性のある公務員、団体職員、企業職員等
- ② 理工系学生・・・地域や社会のニーズに的確に対応できるエンジニア、科学者等
- ③ 医薬保健系学生・・・地域課題を理解し、地域医療の発展に真摯に取り組む医療従事者等



##### （地域志向カリキュラムの特徴）

###### ■「地域概論」の導入スタイル

「地域概論」は、全新入生を対象とした必修科目であるが、全新入生が同じ内容の講義を受けるのではなく、人文学類・法学類・経済学類・学校教育学類・地域創造学類・国際学類・数物科学類・物質化学類・機械工学類・電子情報学類・環境デザイン学類・自然システム学類・医学類・薬学類・創薬科学類・保健学類の全16学類が、それぞれ学類の専門的学問分野に合わせてカリキュラム設計を行い、講義を実施する。

これにより、地域に関する「知識」ではなく、自分の所属する学類における専門的「知識」と地域「社会」を結びつけることができるようになり、地域の未来を拓く「地域の感性」を備えた人材となるための導入科目となる。

課題に対する大学の取組	25年度	29年度 (目標値)
シラバスにおける地域学修科目	109科目	150科目
入学1年以内に地域に関する科目を履修する学生数	857人	1,800人

#### 地（知）の拠点である大学へのさらなる期待



石川県小松市  
市長  
和田 慎司

金沢大学が小松市のさまざまな課題をテーマにCOC事業を始めて2年目になりますが、どのプロジェクトも熱心に取り組んでいただき深く感謝しています。木場潟の水質環境の改善事業は、市民や企業も参画する取り組みに発展しましたが、これも学術的な裏付けがあったからこそです。「地方創生」が国の重点政策になっていますが、金沢大学は小松市における課題解決と活性化の推進役を担ってくれています。「ものづくりのまち」としてのさらなる発展、生涯学習の充実などにおいてもCOC事業に期待しています。

#### 大学の枠を超えた学びと活動の場



金沢大学  
人間社会学域 人文学類4年  
笈田 紗希

私は、金沢大学で書道部に所属していました。書道部では年に三回、書展を行います。毎回、観に来てくださる地域の方との交流を大切にしています。地域の方から、アドバイスをもらったり、作品について説明したり、語り合ったり……楽しい学びの場がそこにはあります。こういった、講義にとどまらない、部活動や文化活動等、様々なベクトルでの大学の地域貢献は可能ですし、そのひとつひとつが「地(知)の拠点」だと感じています。大学の枠を超え、学生も地域も学び合える。こういった活動が続いていくことを期待します。

# 金沢工業大学

連携自治体：野々市市、金沢市

## 事業名：地域志向「教育改革」による人材育成イノベーションの実践



### 事業の概要・目的

#### （地域の課題）

#### 連携自治体の課題（平成25年度申請時点）

野々市市	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民参画によるまちづくりの推進</li> <li>行政事業の再点検とNPO含む民間委託の推進</li> <li>子育て支援等心のかようまちづくりの推進</li> </ul>
金沢市	<ul style="list-style-type: none"> <li>新幹線時代への対応（交流人口の拡大）</li> <li>金沢市中心市街地における賑わい創出</li> <li>独創性と多様性に富んだものづくり産業の振興</li> </ul>

#### （課題解決のための大学の取組）

学生、地域住民、企業が参画し、地域の課題に関連した「学び」・「気付き」・「行動（動機付け）」を行うコミュニティを形成。このコミュニティと本学の研究（技術開発等）・社会貢献（サイエンス講座等）と連動した教育実践や地域志向カリキュラムの実践を通じて、「正課＋課外」学習から地域志向による教育改革を推進する。



### 人材育成の取組

#### （人材育成像）

教育目標「自ら考え行動する技術者の育成」  
学生が地域社会における具体的な課題と向き合う機会が増加し、実践的なアクティブラーニングの導入が全学的に推進されることで、地域志向を兼ね備える「自ら考え行動する技術者の育成」を図る。

#### （目指す人材育成のためのカリキュラム改革）

地域や自治体・地元企業と連携した「正課＋課外」学習による教育研究プロジェクトを発足し、付加価値の充実に合わせて地域志向を取り入れた教育改革を実践。

- 全学を通して正課の開講科目40%に地域志向の要素を取り入れ、アクティブラーニングを通して地域と専門性の関係について理解を深める。
- 「正課＋課外」学習による教育研究プロジェクトに参画し、地域課題への意欲を醸成。
- 地域の課題解決に自らのスキルで成果を見出し、専門基礎の定着と理解を深める。
- 産学・地域連携による地域の課題解決を自らが実践して成果を残し、専門力の応用、イノベーションの育成を図る。

#### （これまでの成果）

- 地域志向科目【プロジェクトデザイン科目、基礎科目、専門科目】の開講（目標40%）  
H25 3% → H26 10%
- 「正課＋課外」学習が連動した地域志向教育研究プロジェクトを17件発足。のべ2300名の学生が参加し活動・実践する。各プロジェクトがテーマとする地域社会課題に対し、地域住民や企業との連携から課題解決に向けた取組を推進。

#### 地域志向教育研究プロジェクトの一例

「**Toiroプロジェクト**」（参加学生：50名）  
地元建設業界に対する設計～維持管理におけるプロセスの統合化をテーマにBIM（Building Information Modeling）の普及を産官学連携により実践。  
野々市市との連携から、学生によるバス停設計や木造新築物件を設計。平成26年11月に竣工した。また、BIMを用いたサイエンス講座（チャレンジ教室）を実施し、700名の親子が参加した。  
【地域志向関連科目：履修人数600名】建築CAD（2年/2単位）、建築構造力学Ⅰ（2年/2単位）空間メディア（3年/2単位）



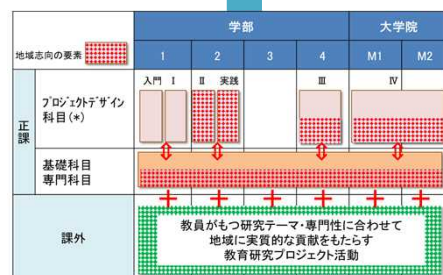
#### 「Machine Tools Enthusiast (MaTE) プロジェクト」

（参加学生：34名）  
地元機械工作メーカーを取り巻く厳しい社会環境を背景に、各社が抱える具体的な製品開発における課題を共有し、技術者と学生が共に課題解決に向けて学びあうプロジェクト。  
年間35回にわたり専門的な設計・加工方法について勉強会を実施し、連携企業に体系化された理論・技術ノウハウを学んだ学生が、国際技術者会議においてデスクトップ工作機械の開発に関する発表を行った。  
【地域志向関連科目：履修人数670名】機械系製図Ⅰ（1年/2単位）、材料力学Ⅰ（2年/2単位）、機械加工学（3年/2単位）



#### （卒業後の学生のイメージ）

- 製造業において組織に蓄積される技術やノウハウを活かし新たな価値創造を担うエンジニア。
- ICT企業において業界の枠を超えた組織同士のアライアンスからイノベーションを推進するプロジェクトリーダー。
- 建設関連企業において地域社会の立場に立った開発やまちづくりを推進するプロジェクトリーダー。



\*プロジェクトデザイン科目：本学の教育実践の主柱となる科目。全学生を対象とし、チームラーニングで問題発見から解決にいたる過程と方法を実践しながら学ぶ。

#### （地域志向カリキュラムの特徴）

##### 【COCコア科目】

##### ■ プロジェクトデザインⅡ（2年次・必修・2単位）

自治体が抱えるビジョンやニーズをテーマに、5名～7名程度のチームにより具体的な課題を創出。解が多様なテーマに対しチームで問題発見解決に取り組むことでそのプロセスの修得と経験を積む。全学科共通の必須科目で2年次生（1,980名）が履修。  
【学生が提案するテーマ例（金沢市）】  
・金沢を国際都市にするためのSNSアプリ作成  
・金沢の夜間景観の活性化  
全16週の内、第1週に野々市市・金沢市の担当者によるプロジェクトテーマの説明が行なわれ、第11週に中間報告会を実施。16週には優れた解決策を創出したプロジェクトチームが、自治体内でのポスターセッションに参画し自治体職員からのフィードバックを得た。



コトづくり「教育」の重点指標	H25実績	H26(予定)	H29目標値
シラバスに地域連携の要素が明記されている科目	全体の3%	全体の10%	全科目の40%
地域の課題に成果をもたらす学習機会に参画する学生数	全体の3%（186名）	全体の6%(400名)	全体の20%
地域の課題に関連した正課＋課外の学習機会に参加画する学生数	全体の10%（758名）	全体の16%（約1,200名）	全体の60%

#### 大学の地域志向に期待を寄せて



金沢市  
都市政策局担当局長  
**高橋 信博**

本市は、「世界の交流拠点都市」をめざし、まちづくりを進めています。その重点方針のひとつとして大学との連携を推進しているところです。金沢工業大学は、地域の課題解決に向けて学生ならではの柔軟性と即効性のあるプログラムをまとめており、本市としても期待感をもって連携を深めているところです。地域に根づく人材が育成され、新たな価値を創造し続けることによって持続的に発展する都市の好循環システムを同大学と共に構築していきたいと考えています。

#### 地域志向によって得られた人生ビジョン



金沢工業大学  
環境・建築学部 建築都市デザイン学科 4年次  
**浦口 昂久**

明確な目的を持って夢の実現に向けて取り組む大学院生と出会い、先輩が力を注いでいた地域志向教育研究プロジェクトに参画しました。金沢市中心市街地を拠点とした空間デザインをテーマとする実施設計活動に没頭し、自分の力がどこまで地域社会に成果をもたらすことができるのか？を常に意識することができました。今後は大学院へ進学し、「空間デザイナーとして社会に貢献する人物」という私の人生ビジョンの実現に向けて、さらに経験を積み重ねたいと思います。



## 福井大学

連携自治体：福井県、福井市、永平寺町、敦賀市、勝山市、高浜町



## 事業名：地域を志向して人を育み、地域を活かす福井の知の拠点づくり

### 事業の概要・目的

#### (地域の課題)

##### 【地域課題として顕在化された重点5分野】

1	地域再生・活性化の基盤となる「人材育成」
2	地域産業の持続的な発展に資する「ものづくり・産業振興・技術経営」
3	進行する少子高齢化と過疎化に対応する「地域医療の向上」
4	自然共生社会を実現する「持続可能な社会・環境づくり」
5	安全・安心に資する「原子力関連分野の人材育成、防災体制の確立」

#### (課題解決のための大学の取組)

地域課題を解決するため、学長をトップとしたCOC推進体制を整備するとともに、地域志向の実践力と創造力を有する学生を育成するため、全学の共通・教養教育並びに3学部・大学院の教育プログラム・カリキュラムの改革を地域と協働して行い、全学を挙げて「福井の知の拠点づくり」を目指す。

また、教員養成・工学・医学分野において、地域の特性を活かした研究プロジェクトの推進やイノベーション創出に向けた研究開発を行うとともに、教員による社会貢献活動を活性化し、地域との連携を一層進めながら、学生も参画して地域の課題に取り組む。

### 人材育成の取組

#### (人材育成像)

##### 【地域志向・地域の課題解決の視点から】

福井県の教育を支える、質の高い、優れた実践力を有する教員
持続可能な環境や地域づくりを担い、地域の課題解決に取り組む人材
地域医療を支える、高い総合性・専門性を備えた医療人
原子力の安全性、防災・危機管理について専門性を生かし貢献できる人材
地方においても進むグローバル化社会の中で活躍できる人材

#### (目指す人材育成のためのカリキュラム改革)

- 初年次から始まる共通・教養教育科目において、地域を志向したコア・カリキュラムを実施し、入学当初から地域に関わる課題を認識させ、その問題に対する関心を高める。
- 専門教育では、コア・カリキュラムとのつながりを意識しながら、地域課題をより深く学修し、学生自らが積極的・主体的に問題を発見し、解を見いだしていく能力を培う。
- 共通・教養教育、専門教育の両方において、能動的学修(アクティブ・ラーニング)による講義室以外の学修機会を設け、より高い学修効果による地域志向の実践力と想像力を培う。

#### (これまでの成果)

- コア・カリキュラムを14科目開講し、平成25年度は延べ1,324人、平成26年度は延べ1,158人の学生が選択し履修した。この地域志向科目の履修により、地元への課題意識を高めることができた。
- アクティブ・ラーニング科目として、平成25年度に23科目(履修者:延べ2,499人)、平成26年度に29科目(履修者:延べ2,899人)を開講した。学生は講義室以外での能動的学修を行う事で、地域志向の実践力を高めることができた。
- 地(知)の拠点フォーラムを開催し、自治体等協力関係者の参加も得て、各取組の紹介と交流を行った。

- 事例1 (共通・教養教育科目/選択必修 2単位)  
「三方五湖に関する講義」  
コア・カリキュラムの中に「NHK サイエンスZERO」を取込み、地元福井県の三方五湖(水月湖)の地質、年縞の魅力に触れる授業を実施した。履修者及び聴講者は約150名にものぼり、地域に関する教養を高めることができた。また、この模様はNHK福井のニュースで報道された。

- 事例2 (専門科目/必修 2単位)  
「学生のまちづくり参画」  
地域をフィールドに、鉄道駅周辺のまちづくりに工学部の学生38名が設計演習のアクティブ・ラーニングとして参加した。現地調査やヒアリング等を通し、訪れる人も、住む人にも魅力的な「住み続けたい」まちを目指して学生の柔軟な発想でプランを立案した。

- 事例3 (共通・教養教育科目/必修 1単位)  
「英語によるマーケティング授業」  
海外と取引のある県内メガメーカーの特別講義を受けた後、海外6カ国をマーケットとしたメガネデザインをテーマに少人数グループによる演習を行い、英語でプレゼンテーションを行うという形式の授業を実施した。24名の2年次生が履修し、ネットや書籍、聞き取り調査等による情報収集、客層調査、デザイン考案、価格設定などをグループ演習により行うことで、社会で必要とされるチームでの結束力や表現力等を培うことができた。

#### (卒業後の学生のイメージ)

- ① 地域の抱える課題についての問題関心をもち、その解決に必要な教養・専門的な知識技能を身につける。
- ② ①に述べた問題関心と知識を生かしながら解決や変革を担って行こうという主体的な能力を身につけ、生かす。
- ③ それぞれが生活する地域の中で、他の人と協働しながら地域の活動と変革のいとなみに市民として参加している。



#### (地域志向カリキュラムの特徴)

重点分野のうち「ものづくり・産業振興・技術経営」、「持続可能な社会・環境づくり」、「原子力・エネルギー」の3分野をコアとして「共通・教養教育科目」を括り、具体的な地域の課題について、問題意識を持たせるとともに学びを体系化することで、主体的な学習を促す地域コア・カリキュラムを開講している。

課題に対する大学の取組	25年度	26年度(予定)	29年度(目標値)
地域に関する学修を行うことを明示している授業科目(科目数/全科目数/履修学生数(延べ数))	51科目/755科目/1,725名	58科目/781科目/1,911名	72科目/792科目/2,696名
地域を志向したコア・カリキュラム	14科目	15科目	17科目
アクティブ・ラーニング	23科目	24科目	27科目

### 新たなスタイルの研修を協働運営して



福井市  
教育委員会事務局生涯学習室 室長  
倉 美幸

福井大学と連携・協働した長期研修「学び合うコミュニティを培う」では、研修担当者2名が携わり、受講者たちの実践のふり返りからたらされる交流や研究、そして実践を記録するといった歩みを大学教員とともに支えています。講座の実施にあたっては、必ず事前・事後の打合せを行い、受講する公民館主事の成長過程や研修全体に関わることを通じて、研修担当者も成長しており、培った知識や経験を業務に活かしています。

### 大学生防災サポーター参画による地域防災の活性化



福井大学大学院  
医学系研究科 修士課程 災害看護学分野 1年  
朝田 和枝

福井大学と永平寺町が連携し、「つながれ地域の絆〜学ぼう! 災害時の応急手当〜」をテーマに今年で2回目の講習会を開催しました。町民のアンケート結果からは、若い力ある大学生防災サポーターが主体となって、CPR・AED、家庭でできる応急手当の講習会を企画・開催することで、町民の防災・減災に対する士気が高まっていると感じました。今後も、地域で行われるイベントに参加し多くの町民との顔の見える関係づくり、町民を交えた防災訓練等を企画していきたいです。引き続きこの事業に参加することで、地域住民との絆を強め、自助共助公助により災害に強いまちづくりに貢献したいと思います。

## 山梨大学

連携自治体：山梨県

### 事業名：山梨ブランドの食と美しい里づくりに向けた実践的人材の育成



#### 事業の概要・目的

##### (地域の課題)

##### 連携自治体の課題(平成26年度申請時点)

農業従事者の減少、耕作放棄地の増加、農産物やワインの地域ブランド化・高付加価値化、持続可能な食料生産と供給、自然と共生した美しい里づくり

##### (課題解決のための大学の取組)

地域の食・環境・経済の問題解決と若者の定着促進により持続的に繁栄する地域の構築を目指す。

教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域志向型共通教育カリキュラムの実施</li> <li>地域課題実践型コースの設置                     <ul style="list-style-type: none"> <li>ワイン科学特別コース</li> <li>食のブランド化と美しい里づくり人材育成コース</li> </ul> </li> <li>地域課題解決科目へのアクティブ・ラーニングの活用</li> </ul>
研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>新技術創出を目指す地域志向教育研究プロジェクトの推進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>食の地域ブランド化分野(機能性食品など)</li> <li>次世代農業創出分野(スマートアグリなど)</li> <li>美しい里づくり分野(水質保全など)</li> </ul> </li> </ul>
地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>県民参加型アグリツーリズム、ワインツーリズムの開催</li> <li>水質分析ネットワークの構築</li> <li>国産ワインコンクールの開催</li> <li>持続可能な産業と地域計画に関する研究による啓発活動</li> <li>「食」と「里」の公開講座セミナーの開催</li> </ul>

#### 人材育成の取組

##### (人材育成像)

- 高度な専門性(ワイン科学)に基づき、これからの地域産業(ワイン)の発展を総合的にプロデュースできる人材
- 農業生産、食物生産・加工、流通、販売、消費、農村計画の一連の社会経済活動において、環境負荷の低減・持続的に繁栄出来る社会の構築を目標とし科学的な視点をもって行動できる人材

課題に対する大学の取組	平成26年度(申請時)	平成27年度(予定)	平成30年度(目標値)
地域志向型共通教育カリキュラムを履修する延べ履修者数	903人	990人	1,200人
ワイン科学特別コース科目の延べ履修者数	54人	60人	80人
食の地域ブランド化と美しい里づくり人材育成コース科目の延べ履修者数	1,258人	1,340人	1,600人

##### (目指す人材育成のためのカリキュラム改革)

##### ■ 地域志向型共通教育カリキュラムの実施

主に1,2年次を対象とした全学共通教育科目内に地域志向を目指すため、全学生を対象に「地域志向導入科目」「地域志向発展科目」を設置し、必修・選択科目を設け、地域の課題を見出し、解決するための論理的思考力を養うために実施する。

##### ■ 地域課題実践型コースの設置

- **ワイン科学特別コース**  
1,2年次はブドウやワインに関する専門の講義を中心に、最先端の知識と技術を学び、3年次からはブドウ栽培実習、ワイン製造科学実習、県内ワイナリーでのインターンシップを交えて、実践に即した応用力を養う。4年次の卒業研究では、ワイン科学に関するテーマに取り組み、ワイン醸造技術者としての素養を深める。
- **食のブランド化と美しい里づくり人材育成コース**  
1年次には食物科学や環境科学、経済経営、地域医療に関する入門講義により農業経営や環境地域計画に関わる基礎知識を養い、2,3年次には生物資源論や食品製造学、防災工学、水質学、地域共生デザインなどの講義と生物資源実習やインターンシップを通して、専門知識を高めると同時に、実践力も養う。4年次の卒業研究は実践型研究や共同研究開発に取り組みすることで、事業創出能力や課題解決能力を養う。

##### ■ 地域課題解決科目の設置

地域課題実践型コース内にグループワークなどのアクティブラーニングを取り入れた地域課題解決科目を設置し、課題解決の能力を養う。

##### (現在の取組)

##### ■ 地域志向導入科目の事例

- 「山梨学」(全学共通教育科目/選択2単位)  
県内事情に詳しい大学内外の研究者、企業経営者、学芸員等の専門家が、それぞれテーマを決めて専門的な内容の講義をした。本年度33人が履修し、地域の理解を深めるとともに、現地視察を交えて幅広く学習した。



##### (卒業後の学生のイメージ)

- ① 生態系の保全、環境、さらに人間の健康に配慮し、持続可能な食料生産、食品製造などで中核となる農業経営者や、農業法人、食品メーカーなどの企業人
- ② 地域自然環境、計画学、社会・経済・行政システムなどの知識を持ち、まち(美しい里)づくりの中核となる企業人・行政職員
- ③ 地域産業の強化に役立つ人材、地域を志向する教員、地域の医療を担う人材など



年次	1	2	3	4
地域志向型共通教育科目(全学必修)	■	■	■	■
地域課題実践型コース・専門科目	■	■	■	■

##### (地域志向カリキュラムの特徴)

- 地域志向型の全学共通教育カリキュラムと地域課題実践専門カリキュラムの連動により、地域の課題解決に必要な能力が身につく。
- 地域志向型共通教育カリキュラム：「山梨学」などの地域志向導入科目、「ワインと宝石」「自然災害と都市防災」などの地域志向発展科目により地域を知る。
- 地域課題実践型カリキュラム：ワイン科学、「食」の地域ブランド化、「美しい里づくり」に関する技術者、研究者を養成する2つの実践コースとアクティブラーニングの手法を取り入れた各学部の専門カリキュラムにより、地域の課題を解決する実践的な能力が身につく。

#### 山梨創生の原動力としてのCOC事業



山梨県  
農政部長

山里 直志

山梨県が抱える課題のひとつである、農業分野の振興及び自然と調和した美しい「里」づくりに、山梨大学が山梨県をはじめ関係諸機関と連携して、本COC事業を実施することに期待します。さらに地域志向型の教育カリキュラムを学ぶ中で、多くの学生が地域の課題を解決できる実践的人材として、地域創生に貢献いただくことを望みます。

#### 山梨のワイン産業を発展させる人材となるために



山梨大学  
生命環境学部地域食物科学科ワイン科学特別コース 3年

望月 大貴

私は、ワイン科学特別コースに所属し、山梨の特産品であるブドウやワインのことに学び、ブドウの栽培、ワインの醸造法など基礎的な部分から微生物学や発酵工業学といった発展的な講義を履修し教養を深めました。また、インターンシップに参加し、実際の醸造現場で研鑽を積み、より一層ワインに対する理解を得ることが出来ました。将来的に山梨のワイン産業を支え発展させられる人材になれるよう自身を磨いていきたいです。



## 山梨県立大学

連携自治体：山梨県、甲府市、富士川町、道志村

### 事業名：課題解決への介入と未来思考の対話による実践型カリキュラム構築



#### 事業の概要・目的

##### (地域の課題)

地域	課題(取組テーマ)
山梨県 人口：863千人	地場産業のブランド化・国際化 看護・福祉の充実 子育て支援・幼児教育の充実 中心市街地の活性化 着地型観光の推進
甲府市 人口：199千人	中心市街地の活性化
富士川町 人口：16千人	農村・中山間地域の活性化
道志村 人口：2千人	

##### (課題解決のための大学の取組)

#### 取組1: RPDC(Research-Plan-Do-Checkサイクル)による実践的教育カリキュラムの構築

地域課題の解決に向けた取組を推進するため、地域課題の解決を効率的・効果的に行うためのプロセスを調査・研究(Research)、計画(Plan)、実践(Do)、評価・検証(Check)の4つのフェーズから捉え、社会貢献活動を通じサイクルとして展開することで、教育・研究目標を達成するための仕組みを構築する。

#### 取組2: 学術研究と受託研究による取組

従来の学術研究に加え、地域志向の研究活動を具体的に示すひとつの形として、本事業を通じて受託研究に積極的に取り組む。そのために求められる企画提案能力、業務実施段階の発注者との調整能力、報告書作成などのアウトプット能力を補完するために、地域戦略総合センターに受託研究をサポートする専門スタッフを配置する。

#### 取組3: 未来思考の対話の場フューチャーセンターの設置による知の拠点の構築

これまで行われてきた担当・実践レベル(教員・行政担当者)での地域との対話に加え、本学及び各地域において多様な対話の場となる「山梨県立大学フューチャーセンター」を設置することで、地域と継続的かつ未来思考の対話を重ねていくことを目標とする。具体的には、首長一学長のトップレベルから学内レベル(教員・学生・住民まで)多様な対話の場を設定することにより、全学としての「地域志向」の取組を推進する。

#### 人材育成の取組

##### (人材育成像)

「未来の実践的担い手の育成」を教育目標として掲げる本学では、学生が地域課題解決のためのRPDCサイクルに継続して参加することを通して、地域活動と連動した自らの学びのサイクルを構築することにより、地域社会の発展に向けて自らが主体的に学び、キャリアをデザイン出来る人材を育成する。

##### (目指す人材育成のためのカリキュラム改革)

地域に関する学びを構成する科目として、H26年度、以下の3種類の科目からなる「地域人材育成科目群」を設置し、WEBシラバスにて学生に周知を行った。

科目	概要
地域実践科目	対象地域における実践活動を通じて、知識・技術・姿勢のバランスがとれた実践力を高めることを目標とする科目(主に、実習・演習科目)
地域課題関連科目	地域課題の解決に必要な知識・技術・姿勢の修得を目標とする科目のうち、地域に関する具体的な教育内容を含む科目
地域科目	上記2科目以外に、広く地域に関する知識の修得を目標とする科目

##### (これまでの成果)

前述の科目群の設置に加え、国際政策学部にて新規科目「サービラーニング」を開講し、5名の教員が5件のプロジェクトを実施して、30人の学生が履修した。

#### 平成26年度地域志向教育研究プロジェクトの事例

##### 市民後見人養成プログラムによる人材育成

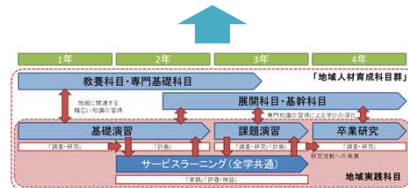
山梨県との連携により、本学が市民後見人養成講座を開講し、カリキュラム修了者を家庭裁判所等の市民後見人リストに登録できる仕組みづくりを推進している。

##### 「花子とアン」のまちづくり

連携自治体：甲府市  
NHKドラマ「花子とアン」の情報や甲府市の観光情報などを、Facebookページを用いて学生が親しみやすく情報発信を行った。その結果140万アクセスを達成し、山梨県の「平成26年度おもてなしのやまなし知事表彰」を受けた。

##### (卒業後の学生のイメージ)

グローバル化時代の地域における課題解決手法の創造と課題解決を実践できる人材の育成を通じて広く社会に貢献する。



※国際政策学部の例

##### (地域志向カリキュラムの特徴)

#### ■「山梨学」2単位

履修年次：1・2・3・4年 履修者数：134人  
本学の学部構成を活かし、産業、福祉、健康などの視点から、山梨という地域社会について、現状・特徴や課題を学び、総合的に理解を深めることを目的とする。また、地域をより具体的に把握するために、2回の現地視察も行っている。

#### ■「サービラーニング」2単位

よつび総研プロジェクト  
履修年次：1年 履修者数：30人  
サービラーニングは学部の専門科目と連動し、学生の主体的な学びを促進するための体験型・実践型の授業である。授業内で行われる活動は、地域社会の課題と密接に関連している。「よつび総研プロジェクト」の趣旨は、学生が大学のキャンパスに閉じこもらず、甲府中心街へ飛び出して、地域貢献・社会貢献の中で、学生自身の「人間力」を養うものである。



課題に対する大学の取組	25年度	26年度(予定)	29年度(目標値)
地域人材育成科目群の科目数	188科目/1,257科目(15%)	230科目/1,257科(18%)	380科目/1,258科目(30%)
地域との共同研究に携わる教員数(割合)	39名/107名(36%)	41名/107名(38%)	42名/107名(39%)
国・自治体等からの受託研究等の本数(受託金額)	2本 総額2百万円	3本 総額5百万円	本事業期間内の累計:20本(総額30百万円)

#### 山梨県立大学と取り組む地域課題



甲府市  
企画部長

萩原 泰

山梨県立大学が、「地(知)の拠点整備事業」として採択されたことから、甲府市が目指す「人がついでに心がかよう 笑顔あふれるまち・甲府」の実現に向け、ともに推進できることを大変嬉しく思います。

平成26年度は、「花子とアン」と連動しSNSを用いた観光情報発信を行うなど、若者の視点を生かした連携などに取り組まれました。

このように、学生の地域活動への参加が、本市との地域課題の解決につながるものと大きく期待しています。

#### 高齢者のサクセスフルエイジング実現に向けて

山梨県立大学  
看護学部 3年

長瀬 綾恵

私は「高齢者のサクセスフルエイジング実現に向けてのプログラム開発のプロジェクト」の活動として、老人ホームで地域の子どもたちを誘ってアクティブプログラムを高齢者の方と一緒にしたり、地域に住む高齢者の身体・体力測定や健康相談を行う活動をしたりしました。高齢者の方々から人生の先輩として豊かな経験や知識・知恵を教わり、高齢者に対する敬意の気持ちが活動前よりも高まりました。また、地域の高齢者を多面的に捉え、理解することが出来るようにもなりました。活動後は、高齢者への理解が深まっただけでなく、地域の高齢者への関心が高まり、以前よりも地域に目が向くようになったことを感じています。

## 信州大学

連携自治体：長野県・長野市・松本市・上田市・伊那市・南箕輪村

### 事業名：信州を未来へつなぐ、人材育成と課題解決拠点「信州アカデミア」



#### 事業の概要・目的

##### 地域の課題：H25年度申請時優先テーマ

信州・長野県の「地域アイデンティティ」を形成する要素を「地域対話」によって抽出し、信州を100年先の未来へとつなぐために必要な解決課題を設定。

##### ■中山間地域コミュニティの未来

村の数が日本で最も多く、中山間地も多い。人口減少・流出も多く、地域活性化だけでなく撤退も含めた戦略が必要

##### ■信州の歴史・文化芸術の未来

美術館や公民館等の文化芸術施設が日本で最も多いが、その強みを活かし、地域維持に活用する仕組みが必要

##### ■人と動物・自然環境の共生する未来

鹿や熊、猿、猪などの自然鳥獣による農林業被害や自然環境破壊が拡大。生態系のバランスをとる仕組みが必要

#### 課題解決のための大学の取組

##### 【調査・研究】(開発)

地域との様々な対話を通じて将来像と課題を設定。課題解決に寄与する「実践知」を地域と協創する

##### 【地域貢献】(人材育成)

課題解決知を学習するカリキュラムを作成し、実践と理論を両立した地域人材の学び直しを展開する

課題解決知を体系化

##### 【大学教育】

学び直し人材や自治体職員を「地域講師」に活用。また地域課題を切り口として自身の所属学部以外にも他分野の知識を得たり、実践する学習環境を構築する

・地域講師・フィールドとして大学教育に活用

#### 人材育成の取組み

##### 人材育成像

- 「学問と社会・地域のつながり」に対する深い経験と理解力を有し、問題設定・解決にあたる人材の育成

##### 目指す人材育成のためのカリキュラム改革

[1年次] 地域で育成した学び直し人材や自治体職員を積極的に講師に活用。地域・社会課題の認知や実践を通じて問題発見・課題設定志向(マインド)を育成

[高年次] 各学部の専門教育(縦串)に加え、地域・社会課題をテーマ(横串)に分野横断型シラバスを作成。高年次教養を高め幅広い視野を持つ専門人材を育成

#### 人材育成に地域の声を反映

地域自治体との連携協議会を始め、様々な団体との「対話」の場を設定。導き出された地域課題に必要な知を学習カリキュラムとして地域人材や大学教育に活用



#### これまでの成果

- 地域戦略プロフェッショナル・ゼミ(H26～)を通じて地域の学び直し人材を育成(※学生も参加)
  - 地域講師候補者(約70名を輩出予定)
- 地域自治体等と連携した授業(寄付講義)拡充
- 県外からの入学者を卒業後も信州に定着(過去5年間、県外出身者の約2割)

##### ●事例1(専門科目 / 2単位)

##### 「建物履歴を利用した空き家改修デザインプロセス研究」

人口3,000人弱の高齢・過疎化地域である長野県木祖村の空き家対策モデルを実践的に研究。建物改修履歴から持続されるデザインコードを発掘し、設計案を行政・住民・大学とのワークショップを通して修練させる設計プロセスを構築する。また、本事業を通じて改修重要度を示す基礎資料が蓄積されたり、参加する学生は、地域の文化や課題発見力が高まる



##### ●事例2(共通教育(全学年対象教養科目) /ゼミ形式 / 2単位)

##### 「自治体との定住促進政策共同研究を活用したPBL」

連携協定を結ぶ大町市の総合計画重点政策である定住促進政策を共同研究を通じて提案。研究として人口分析や未来予測等を進めると同時に、一部をPBL(Project Based Learning)事業とし、学生によるU-インターンインタビュー等を実施。課題解決の実践学習として、新しいタイプのU-インターンマッチングケースブックを作成し、広報資料として活用



#### 成果指標

総合大学である信大COC活動成果	25年度(実績)	26年度(目標)	29年度(最終目標)
地域志向型教育の有用性を感じる学生	70%	73%	75%以上
教員等の地域志向型教育・研究活動状況	48%	50%	50%維持

#### 卒業後の学生のイメージ

- ① 県内唯一の総合大学として高度専門人材を輩出。全国に人材を提供すると同時に、県内出身者の4割、県外出身者の2割程度が卒業後も信州地域に残り、企業や自治体等でリーダーとして活躍
- ② 本学COCで扱う、地域課題テーマに関連して新規事業や起業等を行うアントレプレナー的人材として活躍

地域志向強化授業の分類	1年		2年		3年		4年	
	共通教育		専門教育		共通教育		専門教育	
中山間地域の…	地域課題	地域課題	地域課題	地域課題	地域課題	地域課題	地域課題	地域課題
文化芸術の…	実践授業	実践授業	実践授業	実践授業	実践授業	実践授業	実践授業	実践授業
環境共生の…	基礎系	基礎系	基礎系	基礎系	基礎系	基礎系	基礎系	基礎系
多文化共生の…	演習系	演習系	演習系	演習系	演習系	演習系	演習系	演習系
健康長寿の…	マインド育成を重視する	マインド育成を重視する	マインド育成を重視する	マインド育成を重視する	マインド育成を重視する	マインド育成を重視する	マインド育成を重視する	マインド育成を重視する
								専門と幅広い教養力

#### 地域志向カリキュラムの特徴

##### ■地域人材を大学教育に活用

地域人材の学び直し事業である「地域プロゼミ」で育成する地域の実践者達に「地域講師」を依頼し、本学の地域志向授業に参画する仕組みを構築する。これにより「良質な地域学習の講師や実践の現場を恒常的に確保することができ、高いレベルの地域活用型の学習や研究環境を提供」することができる

##### ■自治体職員を大学教育に活用

自治体職員を地域講師に活用することで教員らでは提供できない地域の詳細な状況を伝えている。また、自治体が教育連携のノウハウを蓄積することで講義にとどまらないPBL等の実践的学習機会を提供できる



#### 地域と大学の連携による地域社会の担い手形成

長野県 県民文化部 私学・高等教育課長

轟 寛逸

長野県では、総合5か年計画「しあわせ信州創造プラン」で、地域課題解決の基本姿勢として県民参加と協働を掲げ、施策を推進しています。大学との協働も強化しており、信州大学とは包括的連携協定に基づき、地域づくりや産業振興等様々な分野で連携事業を実施しています。平成26年度の「信州アカデミア」事業では、県職員も地域戦略プロフェッショナル・ゼミの講師を務めました。



#### 地域課題解決の実践授業に参加して

信州大学 教育学部 学校教育教員養成課程現代教育コース1年次

中澤 光葉

ケースメソッドの学習を通して課題解決の様々なアイデアを学んだり、実際に地域を訪ねて課題を探し解決策を自分で考えていくうちに地域の問題を私自身の問題として捉えられるようになっていくのを感じました。また、地域の方々や市の職員の方の話を直接聞く機会も持つことができ、人とのつながりを持つことの楽しさも感じることができました。「私にも何かできるかもしれない」という気持ちになれたのはこの授業での一番の収穫だと思います。



## 松本大学

連携自治体：松本市、塩尻市、安曇野市、大町市、諏訪市、飯田市、池田町、木曽町  
山形村、松川村、生坂村、筑北村、南箕輪村

事業名：地域社会の新たな地平を拓く牽引力、松本大学



### 事業の概要・目的

#### （地域の課題）

##### ◆ 課題1：“ひとづくり”

- ・若者の地元定着を  
〈一極集中 → 大都市と地方の経済格差 → 地方の疲弊  
→ 地方からの若者流出〉の悪循環を断ち切る起点は、若者の地元定着。
- ・“まちづくり”のためのひとづくり  
地域再生の鍵は、若者だけでなく、住民・行政・企業を含めた人材の育成。

##### ◆ 課題2：“まちづくり”

- ・高齢社会への対応  
〈郊外型大型店舗の展開 → 市街地商店街の衰退 → シャッター通り → 買い物弱者の増加〉の流れを転換。
- ・充実した福祉の実現  
高齢者福祉だけでなく障がい者・子どもを含めた総合的な地域福祉の課題を解決。
- ・災害への対応  
〈初期対応は自分たちで〉〈自分たちの身は自分たちで守る〉の教訓を活かした“まちづくり”を。

##### ◆ 課題3：“健康づくり”

- ・食と運動を通じた総合的な健康づくり  
住民が健康に暮らせる地域の実現は、食と運動から。食育指導と運動指導の現場を担う人材を育成。

#### （課題解決のための大学の取組）

##### ◆ 地域連携教育をさらに充実させて

- ・数多くの地域科目で、地域課題とその背景を正しく理解させる。
- ・各自治体、地域企業、地域のNPOと連携し、課題解決に向けた実践的授業を通じて現場に強い人材を育成。

### 人材育成の取組

#### （人材育成像）

- 地域に定着し、地域発展に貢献する若者と住民
- 総合的な福祉を軸にした地域づくりに関わる人材
- 災害に強い地域づくりを考え、自らも活動できる人材

#### （目指す人材育成のためのカリキュラム改革）

##### ◆ 個別課題に特化したPBL型授業を導入

- ・「買い物問題」「健康づくり」「災害対策」「歴史遺産の活用」のPBL型授業を順次実施。すでに「買い物問題」がスタート

#### （これまでの成果）

##### ◆ 地域関連科目の実践活動をさらに充実

- ・すでにある地域科目で、地域の食材を活用した商品開発、買物問題解決の実践的試み、高齢者を対象にした運動指導、子どもを対象にした食育指導等で、学生が活動している。

##### ▶ 事例1（コミュニティビジネス/2単位）

地域に根ざした特色あるビジネスの可能性とあり方について、コミュニティビジネス現場で視察や体験を数多く経験させている。平成26年度の履修者は92名。

##### ▶ 事例2（栄養・健康教育実践論/2単位）

地域の保育園等で学生が実際に栄養指導に携わる。平成26年度履修者は89名。

##### ▶ 事例3（地域福祉/2単位）

高齢者・障がい者・子どもをカバーする、総合的な地域福祉を学ぶことを目的とする。平成26年度は、地域社会で障がい者の就労を確保する試みとして、レストラン用の食材提供に向けたフランス鴨飼育を実践。平成26年度履修者は87名。

##### ▶ 事例4（健康運動指導現場実習/1単位）

学生に地域社会で実際に運動指導を体験させ、“健康づくり”のスペシャリストとして養成。平成25年度の履修者は58名、平成26年度の履修者は76名。

##### ◆ 「防災士」資格取得のための講座を設置

- ・日本防災士機構および地域の自治体と連携し防災士の認定に必要な講座を課外授業として設置した。平成26年度の講座には、本学学生約50名、地域住民20名が参加した。

##### ◆ PBL型授業がスタート

- ・買物問題を解決するためのPBL型授業が、全学の全学年を対象に、平成26年から始動。

##### ▼ 事例1（地域課題研究/2単位）

「地域課題研究」の科目名でPBL型授業を開始。全学部の全学生が受講可能とした。平成26年度には12名が履修し、市街地での定点観測などを実施し、平成27年度からの拠点本格始動への準備を整えた。

#### （卒業後の学生のイメージ）

- ① 各自治体の様々な部門で、地域づくりの実践と施策立案・計画に携わる人材
- ② 長野県内各社会福祉協議会等で、地域づくり全般、災害対策を含むボランティア活動の組織化に取り組む人材
- ③ 企業の一員として、環境保全との調和をはかり、地域の経済基盤確保に貢献するビジネスに携わる企業人
- ④ 地域での経済循環を構成する、コミュニティ・ビジネスを起業する人材

#### 個別課題に対応したカリキュラム・マップ

1年次	2年次	3・4年次
地域社会と大学教育 地域社会	コミュニティビジネス リーダーシップ論 地域ブランド	地域課題研究
地域社会と大学教育 健康管理論 スポーツと栄養	生活習慣病と予防 食の社会学	地域課題研究
地域社会と大学教育 地域社会	防災士認定講座	地域課題研究
地域社会と大学教育 地域社会	景観と観光 地域産業史 地域行政	地域課題研究

#### （地域志向カリキュラムの特徴）

##### ◆ 充実した地域関連科目

- ・松本大学は開学以来、地域貢献・地域密着を標榜してきたことから、各学部・学科とも数多くの地域関連科目が配置されている。大学全体で正課科目として設けている地域志向の科目数は、ほぼ50を数える。

##### ◆ PBL型授業で人材育成を集大成

- ・COC事業の一環として導入した「地域課題研究」は、地域で活動するための能力を育成するうえでは、締めくくりに役割を果たす。平成29年度までに、個別課題に即した4つの「地域課題研究」が実施され、「地域課題研究」を受講するまでの学びの道筋（＝カリキュラム・マップ）も上記のように整備された。

課題に対する大学の取組	25年度	26年度 （予定）	29年度 （目標値）
防災の“まちづくり”	10%	50%	100%
若者の地元定着	80%	90%	100%

### 松本スタイルの地域づくりを本格的にスタート



松本市役所  
地域づくり推進本部長  
矢久保 学

「超少子高齢型人口減少社会」の進展に伴い、増大し複雑化する地域課題を従来どおりの発想ややり方で解決することが困難となっています。そのため松本市では昨年4月から全35地区に「地域づくりセンター」を設置し、松本スタイルの地域づくりを本格的にスタートさせました。松本大学とはさらに連携を深め、持続可能で住民一人ひとりが幸せを実感できる地域の実現をとともに目指してまいります。

### 商品開発を通じて地域の新たな魅力を発見



松本大学  
総合経営学部観光ホスピタリティ学科4年次  
矢口 素江

私は、商品開発を通して、地域の新たな魅力の発見や、自分のやりたいことなどを見つけ、就職先なども決めることができました。地域の人達と開発や学びを行うことで、地域を盛り上げていくことへ共通の意識や参加しているという実感を持つことができ、より良い活動ができたと考えています。